

NL9723CK

- バーコード照合システム -

取扱説明書

1.2 版

日栄インテック株式会社
情報事業部 バーコードグループ

はじめに



■はじめに

この度は「NL9723CK」をご購入いただき、誠にありがとうございます。
ご使用の際に、次の注意がございますので、ご一読のほどお願い申し上げます。

■ ご注意

CRD972xRU 通信ユニットにて USB 接続を選択された場合は、付属のドライバーをインストールして下さい。

■ 安全上のご注意

 注意 説明内容を見逃した場合、 傷害を負う可能性または 物的損害を発生する可能性が 想定されます。	 感電、けがの恐れがありますので、 下記事項を必ずお守りください。 ■電源は正しく接続すること。 ■定格電圧以外の電圧を印加して使用しない ■分解しないこと。 ■製品を水に濡らさないこと
--	---

■ ご使用上の注意事項

製品の故障・性能劣化や誤動作の原因となりますので、必ず次の内容をお守り下さい。

- ◎ ほこりや直射日光の当たる場所、高温、多湿となる場所は避けてお使い下さい。
- ◎ 水・油・薬品などのついた手で操作しないで下さい。
- ◎ 製品に強い衝撃を加えたり、落下させたりしないで下さい。
- ◎ 高電圧装置、大型モータなどの放射ノイズの大きい機器に接近しての使用は避けて下さい。
- ◎ ケーブルは強く引っ張ったり、屈曲させたりしないで下さい。

■ 最新情報

弊社 WEB サイト <http://www.barcode.ne.jp> で最新の情報をご覧いただけます。

目次

はじめに	3
目次	4
1. 添付品の確認	5
2. 操作キーの名称	5
3. 電池のセット	5
4. 基本操作	6
1) 本バーコードスキャナでの共通認識として	6
2) 照合回数の設定	6
1:1 のバーコードの比較	6
1:N のバーコードの比較	7
5. メニュー構成	8
6. 各種設定のデフォルト(既定)値	10
7. 各メニューの説明	13
A. メインメニュー	13
B. データ照合	14
C. データ確認	16
D. データ送信	19
E. 担当設定	20
F. データ初期化	22
G. システム設定	24
H. 電池残量	44
I. 空きメモリ	44
J. 反転	44
8: 仕様	45

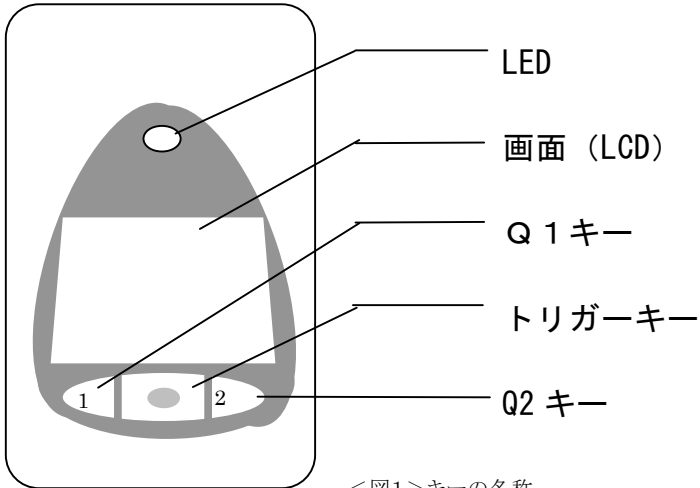
1. 添付品の確認

梱包箱を開けたら下記のもの添付されているかご確認下さい。

- 1) NL9723 CK(本体)
- 2) ハンドストラップ
- 3) リチウムイオン充電電池

2. 操作キーの名称

バーコードスキャナ操作キーの名称を図1に示します。



<図1>キーの名称

3. 電池のセット

- 1) NL9723CK 本体の裏面にある電池蓋をはずします。(爪等を剥がないように注意して作業してください)
 - 2) リチウムイオン充電電池をセットします。
 - 3) 電池蓋を本体にセットします。
- ◎ 充電電池の取り付け方向を間違わないで下さい。間違えて無理に装着しますと、故障の原因になります。

4. 基本操作

1) 本バーコードスキャナでの共通認識として

[桁数]という表現がある場合、初期設定ではスタートストップ(CODE39・NW-7)、チェックキャラクタ(各種バーコード種毎)も含まれます。システム設定において、スタートストップ、チェックキャラクタ(末尾文字)を外すことができます。外した場合は桁数に含まれません。

保存するデータ桁数を限定することで、保存するデータ総数が増減します。スタートストップやチェックキャラクタ(末尾文字)を保存しないことで、保存できるデータ総数は微増します。

2) 照合回数の設定

[Q1]または[トリガー]または[Q2]キーで起動 > メインメニューの[6. システム設定] > [1. 照合設定] > [1. 照合回数] > [1:1] または[1:N]で、照合モードを設定します。

1:1 : 基準となるマスタバーコードを読み取り、比較するチェックバーコードを
読取り比較を行います。

1:N : 基準となるマスタバーコードを読み取ったあと、連続して
バーコード(チェックバーコード)を比較することができます。

<※ 備考>

マスタバーコード	: 比較する元となるバーコード(参照元、親 etc)
チェックバーコード	: 比較するバーコード(参照先、子 etc)
	マスタバーコードと一致するか確認する

1:1 のバーコードの比較

- 1) [Q1]または[トリガー]または[Q2]キーで起動 > メインメニューの[1. データ照合] > 「マスタバーコードをスキャンして下さい」と表示
- 2) 読み取った後、画面にマスタバーコード表示
Q1 : メインメニューへ(照合作業終了)
Q2 : マスタバーコード再読取り
トリガー: チェックバーコードの読取り
- 3) チェックバーコードを読み取り、(照合結果により音、LEDの挙動が違います)
トリガーキー押しっぱなしで、照合結果を表示
- 4) トリガーキーを離すと、1)へ戻る

1 : N のバーコードの比較

- 1) [Q1]または[トリガー]または[Q2]キーで起動 > メインメニューの[1. データ照合] > 「マスタバーコードをスキャンして下さい」と表示
- 2) 読み取った後、画面にマスタバーコード表示
 - Q1 : メインメニューへ(照合作業終了)
 - Q2 : マスタバーコード再読取り
 - トリガー: チェックバーコードの読取り
- 3) チェックバーコードを読み取り、照合結果を表示
- 5) トリガーキーを押すと、3)へ戻り、連続してバーコードの比較を行う
 - ※ メインメニューの[6. システム設定] > [1. 照合設定] > [2. 照合桁] [3. 照合条件] [4. NG時取扱い]の各種設定によりましては、上記の挙動は若干変わる場合もあります。詳しくは後述いたします。

5. メニュー構成

本バーコードスキャナの電源 OFF は、オートパワーオフ設定により制御され、次回起動時には、前回電源 OFF になったときの画面から開始します。

3つのキーの基本的動作は以下のようになります。

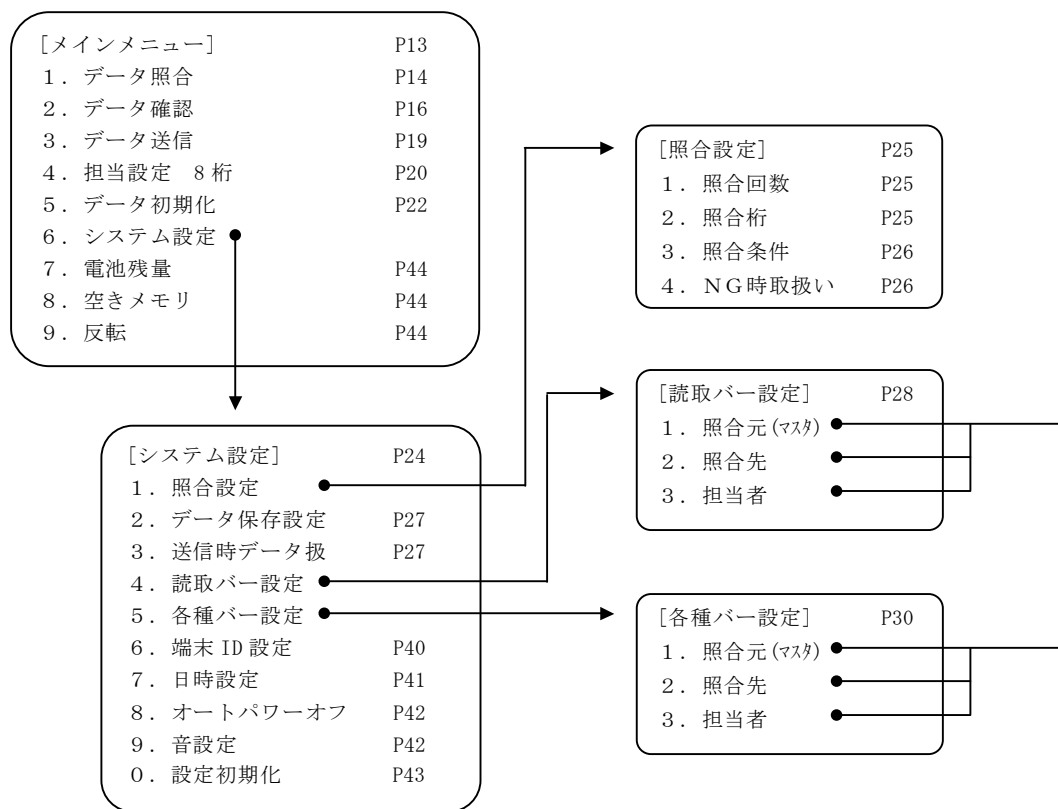
トリガーキー： 項目確定、読取り

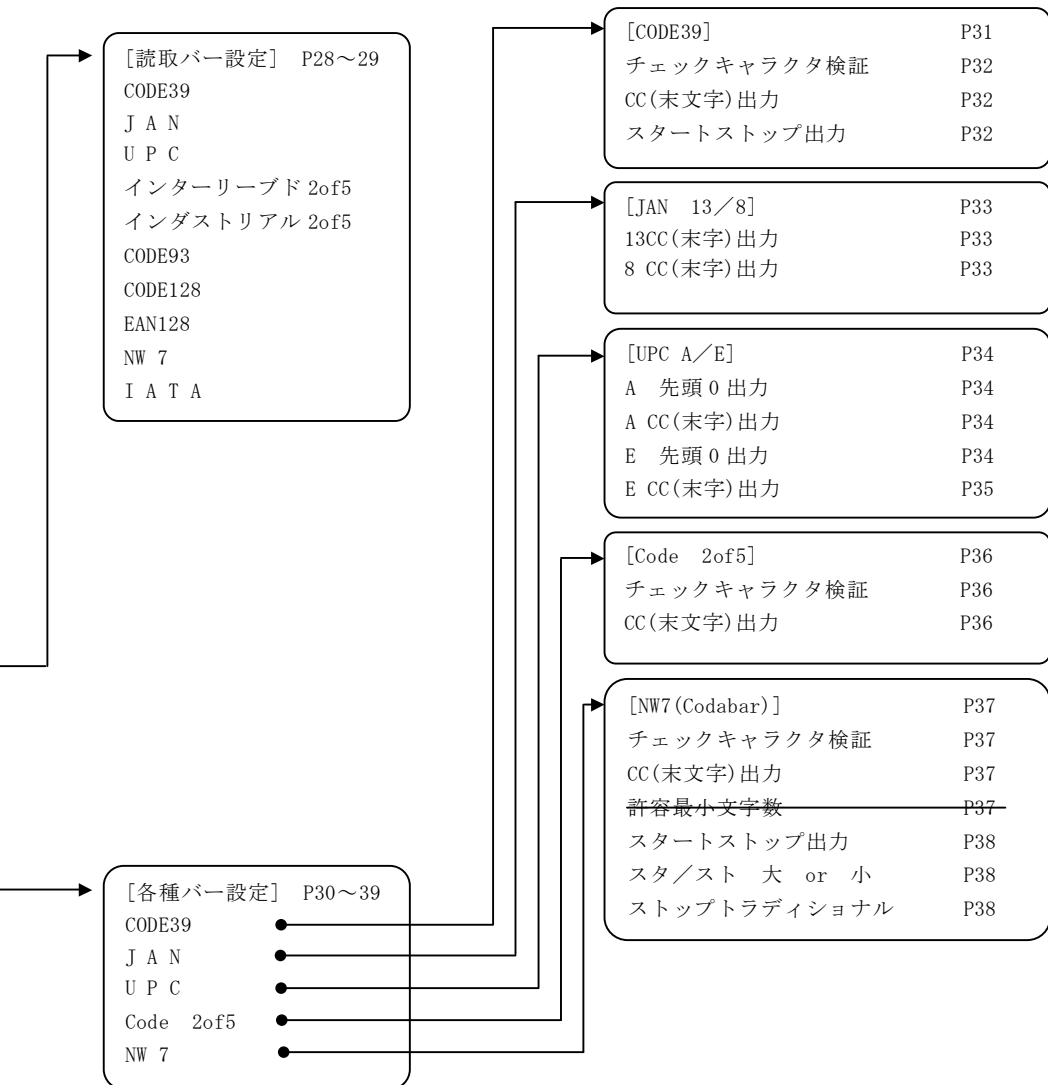
Q1キー： カースル下へ、前レコードへ

Q2キー： カースル上へ、次レコードへ

※各画面によって上記動作に倣わない場合もあります。各種画面の説明書をご覧ください。

本バーコードスキャナのメニュー構成を下記に示します。





※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

6. 各種設定のデフォルト(既定)値

設定番号	メニュー	項目	値
1	メインメニュー	担当者設定 8 桁	(空)
2	メインメニュー	初期化[桁数]	20
3	メインメニュー	初期化[元開始桁]	1
4	メインメニュー	初期化[先開始桁]	1
5	メインメニュー	初期化[照合桁数]	20
6	照合設定	照合回数	1:1
7	照合設定	照合桁[元開始桁]	1
8	照合設定	照合桁[先開始桁]	1
9	照合設定	照合桁[照合桁数]	20
10	照合設定	照合条件	バー種含む
11	照合設定	NG 時取扱い	終了
12	システム設定	データ保存設定	全部
13	システム設定	送信時データ扱	残す
14	読取バー設定	照合(元/先)[CODE39]	*
15	読取バー設定	照合(元/先)[JAN]	*
16	読取バー設定	照合(元/先)[UPC]	*
17	読取バー設定	照合(元/先)[インターリーブド 2of5]	*
18	読取バー設定	照合(元/先)[インダストリアル 2of5]	*
19	読取バー設定	照合(元/先)[CODE93]	*
20	読取バー設定	照合(元/先)[CODE128]	*
21	読取バー設定	照合(元/先)[EAN128]	
22	読取バー設定	照合(元/先)[NW7]	*
23	読取バー設定	照合(元/先)[IATA]	
24	読取バー設定	担当者[CODE39]	*
25	読取バー設定	担当者[JAN]	
26	読取バー設定	担当者[UPC]	
27	読取バー設定	担当者[インターリーブド 2of5]	
28	読取バー設定	担当者[インダストリアル 2of5]	
29	読取バー設定	担当者[CODE93]	*
30	読取バー設定	担当者[CODE128]	*
31	読取バー設定	担当者[EAN128]	
32	読取バー設定	担当者[NW7]	*
33	読取バー設定	担当者[IATA]	
	各種バー設定	照合(元/先)[CODE39]	
34		チェックキャラクタ検証	なし

35		CC(末文字)出力	あり
36		スタートストップ出力	あり
	各種バー設定	照合(元/先)[JAN 13/8]	
37		13CC(末字)出力	あり
38		8CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	照合(元/先)[UPC A/E]	
39		A 先頭0 出力	あり
40		A CC(末字)出力	あり
41		E 先頭0 出力	あり
42		E CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	照合(元/先)[Code 2of5]	
43		チェックキャラクタ検証	なし
44		CC(末文字)出力	あり
	各種バー設定	照合(元/先)[NW7(Codabar)]	
45		チェックキャラクタ検証	なし
46		CC(末文字)出力	あり
47		許容最小文字数	なし
48		スタートストップ出力	あり
49		スタ/スト 大 or 小	小文字
50		ストップラディショナル	abcd
	各種バー設定	担当者[CODE39]	
51		チェックキャラクタ検証	なし
52		CC(末文字)出力	あり
53		スタートストップ出力	あり
	各種バー設定	担当者[JAN 13/8]	
54		13CC(末字)出力	あり
55		8CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	担当者[UPC A/E]	
56		A 先頭0 出力	あり
57		A CC(末字)出力	あり
58		E 先頭0 出力	あり
59		E CC(末字)出力	あり
	各種バー設定	担当者[Code 2of5]	
60		チェックキャラクタ検証	なし
61		CC(末文字)出力	あり
	各種バー設定	担当者[NW7(Codabar)]	
62		チェックキャラクタ検証	なし
63		CC(末文字)出力	あり

64		許容最小文字数	なし
65		スタートストップ出力	あり
66		スタ/スト 大 or 小	小文字
67		ストップトラディショナル	abcd
68	システム設定	オートパワーオフ	30 秒
69	システム設定	音設定	あり

※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

7. 各メニューの説明

A. メインメニュー

NL9723CK の初回の起動時に下記のような画面が表示されます。

(初回に限らず、この画面で電源 OFF となれば、次回起動時もこの画面です。)

[Q1][Q2]キーにより選択項目を変更し、[トリガー]キーで選択を行います。

* NL9723 CK *
1. データ照合
2. データ確認
3. データ送信
4. 担当設定 8 桁
5. データ初期化
6. システム設定
7. 電池残量
8. 空きメモリ
9. 反転

- 1. データ照合**— マスタの読取り、照合、データファイルへの保存を行います。[6. システム設定]の設定により、様々な照合を行います。データファイルへ保存しない設定もあります。
- 2. データ確認**— 保存中のデータ確認または1件ずつ削除を行います。
- 3. データ送信**— 保存されたデータを PC へ送信します。
- 4. 担当設定 8 桁**— 担当者コードを 8 桁以内で設定します。照合作業する担当者をレコード単位で保存できます。
- 5. データ初期化**— データ設定を指定桁数で初期化し、照合元開始桁、先開始桁、桁数を設定します。保存中のデータは消去されます。適切な桁数で初期化をすることにより、スキャナ内に保存可能なレコード数が増減します。
- 6. システム設定**— 照合に関する設定、端末(スキャナ)ID 設定、読取バー設定、各種バー設定、システム時刻設定、オートパワーオフ設定、などを行います。
- 7. 電池残量**— スキャナの電池残量を表示します。
- 8. 空きメモリ**— スキャナの保存可能レコード数を概算で表示します。
- 9. 反転**— 画面を[白黒反転]させることが出来ます。

B. データ照合

B.1 開始

[メインメニュー]で[1. データ照合]選択して[トリガー]キーを押します。

B.2 マスタ入力

照合 (1:1) 0000 マスタバーコードを スキャンして下さい 終了 読取
--

入力待ち画面:

照合 (1:N) 0000 マスタバーコード 4901010109270 終了 照合 取消
--

入力後画面(1:N):

照合 (1:1) 0000 マスタバーコード 4901010109270 終了 照合 取消
--

入力後画面(1:1):

[トリガー] キーを押すと、バーコードの読取りを行います。

読み取った結果は、3行目に表示されます(上記、「入力後画面」参照)。

[Q1] キーを押すと照合を中止して、メインメニューに戻ります。

入力後、[Q2] キーを押すことで、読込み内容を取消し入力待ち画面に戻ります。

続いて[トリガー]キーを押すと、バーコード照合を行います。

B.2 照合

照合 (1:N) 0000 照合OK 10/01 15:00:30 終了 照合 取消

照合画面 例 1:

照合 (1:1) 0000 照合OK 10/01 15:00:30 終了 照合 取消

照合画面 例 2:

[トリガー]キーを押して、バーコードの読取りを行います。

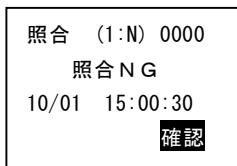
照合が一致した場合は、「照合OK」の表示になります。(1:1)の場合は一定時間で消え、マスタ読取りになります)

[1:N]照合の場合(上記、「照合画面」例1)、続けて複数件の照合を行うことができます。

[1:1]照合の場合(上記、「照合画面」例2)、次に読込むバーコードは、マスタバーコードとなります。

[1:N]照合/[1:1]照合の切替えは、「照合設定」(メインメニュー→6. システム設定→1. 照合設定→1. 照合回数)で、行うことができます。

照合不一致の場合、下記のような画面が表示され、エラーブザーの鳴動、LEDの赤点滅が起きます。



不一致画面(1:N):

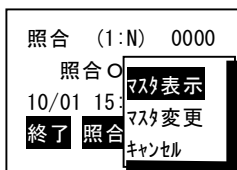


不一致画面(1:1):

照合は、バーコードデータ及び種類の双方を比較する場合(初期設定:バー種含)と、バーコードの値のみを比較する場合(データのみ)があります。設定の変更は、[照合設定](メインメニュー→6. システム設定→1.照合設定→3. 照合条件)で、行うことができます。

[Q2]キーを押すと、マスタ入力画面に戻ります(※初期設定時。[照合設定]で、[NG 時取扱い] を変更すると、照合を継続します)。

B.4 マスタ変更など



表示変更画面(1:N):

(1:N)照合の場合、照合画面で、[Q2]キーを押すと、上記のような、小メニュー選択画面が表示されます。(1:1)照合の場合は[B.2 マスタ入力]になります。

<1:Nの場合>

「マスタ表示」を選択すると、照合を行っているマスタデータを画面に表示します。

「マスタ変更」を選択すると、マスタ入力画面に戻ります。

「キャンセル」を選択すると、小メニューを閉じます。

C. データ確認

C.1 開始

メインメニューで「2. データ確認」を選択して[トリガー]キーを押します。

照合	0007/0015	
OK-ALL	データ	
	4901010109270	
前へ	選択	次へ

05/10/01	15:00	
OK-ALL	マスタ	
	4901010109270	
前へ	選択	次へ

確認画面 1:

確認画面 2:

確認画面の切替は、C.3 確認画面の小メニュー参照。

C.2 確認

[確認画面1]及び[確認画面2]の各説明は下表の通りです。

	確認画面1	確認画面2
1 行目	タイトル [レコード番号(n 件目)/総数]	照合日付(yy/mm/dd) 時間(hh:mm:ss)
2 行目	照合結果 [照合先(データ)]	照合結果 [照合元(マスタ)]
3 行目	照合先コード	照合元(マスタ)コード
4 行目	[前へ]: 前レコードへ	[選択]: 小メニュー表示
		[次へ]: 次のレコードへ

[データ確認]画面説明

2 行目、[照合結果]の各説明は下表の通りです。

画面表示	設定番号 10 の設定値	照合結果
OK-ALL	バー種含む	OK
OK-DATA	データのみ	OK
NG-ALL	バー種含む	NG
NG-DATA	データのみ	NG

[照合結果]説明

C.3 確認画面の小メニュー

[データ確認]画面で、[トリガー]キーを押すと小メニューが表示されます。

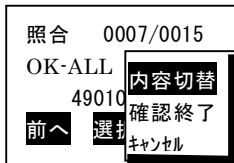


確認画面の小メニュー:

小メニュー	機能
内容切替	[確認画面1]、[確認画面2]の内容切替。
確認終了	[メインメニュー]に戻ります。
キャンセル	小メニューを閉じます。
削除	表示中のデータを一行削除します。

確認画面の小メニュー

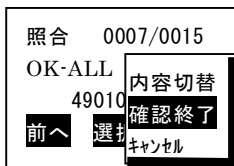
C.3-1 内容切替



[内容切替]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、[確認画面1]、[確認画面2]が交互に表示されます。

確認画面の小メニュー:

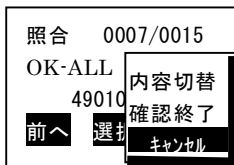
C.3-2 確認終了



[確認終了]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、[データ確認]を終了し、[メインメニュー]に戻ります。

確認画面の小メニュー:

C.3-3 キャンセル



[キャンセル]選択状態(例:上表)で[トリガー]キーを押すと、小メニューを閉じ、[データ確認]に戻ります。

確認画面の小メニュー:

C.3-4 削除

照合 0007/0015
OK-ALL 49010
削 除
前へ 選択

[削除]選択状態(例: 上表)で[トリガー]キーを押すと、削除確認画面が表示されます。

確認画面の小メニュー:

選択データを
削除しますか？
中止 削除

[Q2]キーを押すと選択中のレコード 1 件が削除されます。また、[Q1]キーを押すと、削除を行わず、確認画面に戻ります。

削除確認画面:

選択データを
削除しました
確認

削除を行うと確認画面が表示されます。
[Q2]キーを押して終了して下さい。

削除完了画面:

照合 0007/0014
OK-ALL データ 4901010109270
前へ 選択 次へ

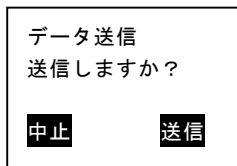
レコード削除後の画面では、総数は 1 件減じて、次のレコード (最終レコードを削除した場合は、前レコード)を表示します。

確認画面:

D. データ送信

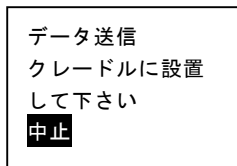
D.1 開始

[メインメニュー]で[3. データ送信]を選択して[トリガー]キーを押します。



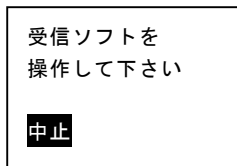
この画面で[Q2]キーを押すと送信待ち状態になります。
[Q1]キーを押すと[メインメニュー]に戻ります。

送信確認画面:



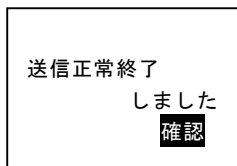
この画面でクレードルに置くと送信を開始します。
[Q1]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信準備画面:



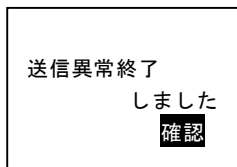
クレードルに置いた時に、左画面になった場合は、
PC側のソフトを受信状態にしてください。
[Q1]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信準備画面 2:



送信が正常終了した場合、左画面が表示されます。
[Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信終了画面:



送信が異常終了した場合、左画面が表示されます。
[Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

送信エラー画面:

送信後のデータの取扱については下表を参考にして下さい。

設定番号 13 の設定値	意味
残す	送信後もデータを保持しています。
消去	送信後、データを消去します。

設定番号 13:「データ送信時データ扱」の設定説明

E. 担当設定

E.1 開始

[メインメニュー]で[4. 担当設定 8桁]を選択して[トリガー]キーを押します。

E.2 担当者登録と変更

担当者コードを設定しておくことで、作業担当者をレコードごとに保存できます。

作業途中で変更した場合も、その変更後の作業から、変更後担当者コードが保存されます。

担当設定 (8)
現在担当 :
[]
終了 読込 消去

担当設定及び確認画面:

この画面で[トリガー]キーを押すと担当者コードを設定できます。
[Q1]キーを押すと[メインメニュー]に戻ります。
[Q2]キーを押すと登録済担当者をクリアします。
3段目の[]内に表示された文字が担当者コードとなります。

担当設定 (8)
現在担当 :
[a123456a]
終了 読込 消去

担当設定及び確認画面:

設定できる担当者コードは最大 8 桁で、スタートストップ、チェックキャラクタ等もデフォルトでは登録対象桁数に含まれます。
左図は NW-7(Codabar) スタートストップ付 8 桁の担当者コードの例です。

E.3 担当者コード登録時の注意点

担当者コードとして登録したいバーコードが読み取れず登録できない場合には、以下のような場合が考えられます。

- 読み取っている対象バーコードの種類が許可されていない。
- 読み取っている対象のバーコードデータの桁数が 9 桁以上ある。
- 読み取っている対象のバーコードがそもそも読み取りづらくただの縞模様である。

縞模様である場合以外は、担当者コードとして登録できる場合があります。

設定番号 24～33 の[読取バー設定]-[担当者]にて各バーコード種類に記しを付けて、担当者コードとして許可するバーコード種類を選択して下さい。

上記で許可したバーコード種類について、設定番号 51～67 の[各種バー設定]-[担当者]にて各種バーコードについて設定した場合、[スタートストップ/なし]、[末尾文字/なし]などの設定が可能です。これにより、*12345678* など CODE39 でスタートストップを含んで 8 桁を越えている場合、[設定番号 53:スタートストップ出力]をなしにすると、実質 8 桁となり、担当者コードとして登録できます。



123456

CODE39(データ6桁)の例

こちらは、[設定番号 24: 読取バー設定-担当者 CODE39]に記がついていれば、

設定番号 53 の 設定値	上記バーコード例の場合の 担当者コード登録状況	登録担当者コード
あり	登録できます。	* 123456 *
なし	登録できます。	123456

担当者コード設定説明



12345678

CODE39(データ8桁)の例

こちらは、[設定番号 24: 読取バー設定-担当者 CODE39]に記がついていた場合でも、
設定によっては読み取れない場合があります。

設定番号 53 の 設定値	上記バーコード例の場合の 担当者コード登録状況	登録担当者コード
あり	登録できません。	—
なし	登録できます。	12345678

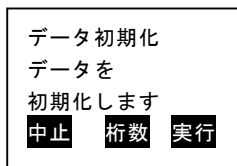
担当者コード設定説明

F. データ初期化

F.1 開始

[メインメニュー]で[5. データ初期化]を選択して[トリガー]キーを押します。

F.2 初期化(データ消去)実行



データ初期化画面:

データ初期化の前に左記の確認画面が表示されます。

[Q2]キーを押すと、データを初期化します。

[Q1] キーを押すと、処理を中止して、メインメニューに戻ります。

[トリガー]キーを押すと、読取りバーコード桁数(保存桁数上限)を設定できます。桁数のデフォルト値は[20]です。



照合元(マスタ)

照合開始箇所設定画面:

初期化の前に、照合桁数の設定を行うことができます。(後述) 特に変更を必要としない場合は、[トリガー]キーを3回押して下さい。

[Q1] [Q2]キーそれぞれで、[照合元の照合開始桁数]

[照合元の照合開始桁数]、[照合先の照合開始桁数]、

[照合桁数]をそれぞれ設定できます。



照合先照合開始箇所

設定画面:

例えば、照合元*1234567890*と照合先*98456132*の[456]

部分を照合対象としたい場合、の設定例は以下のようになります。

元開始桁:5

先開始桁:4

照合桁数:3

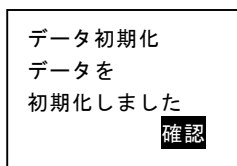
例えば、照合元 1234567890 と照合先 98456132 の[456]

部分を照合対象としたい場合、の設定例は以下のようになります。

元開始桁:4

先開始桁:3

照合桁数:3



データ初期化完了画面:

データ初期化後実行後、左の確認画面が表示されます。

[Q2]キーを押すとメインメニューに戻ります。

F.3 保存桁数変更

データ初期化
データを
初期化します
保存桁数： 20

桁数変更時は4行目に[保存桁数: **](**の値は01~41)が表示され、[Q1]キーで減少、[Q2]キー上昇させて値を変更して、[トリガー]キーで確定します。

保存桁数設定画面:

データ初期化
保存想定回数：
約 1179 回
中止 桁数 実行

設定した読取りバーコード桁数により、保存データレコード数が増減します。初期化を決定するには[Q2]キーを押してください。[Q1]キーで中止します。

保存想定回数は、内部に画面情報を持つ関係上、いつも一定ではありませんが、表示されている回数が目安となります。

設定保存桁数による

保存可能総定数画面:

G. システム設定

G.1 開始

[メインメニュー]で[6. システム設定]を選択して[トリガー]キーを押します。

[Q1][Q2]キーにより、変更確認したい項目を変更し、[トリガー]キーで選択を行います。

* システム設定 *

設定 終了

1. 照合設定

2. データ保存設定

3. 送信時データ扱

4. 読取バー設定

5. 各種バー設定

6. 端末 ID 設定

7. 日時設定

8. オートワパーオフ

9. 音設定

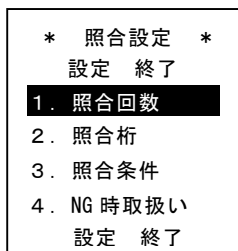
0. 設定初期化

設定終了

- 1. 照合設定**— 様々な照合条件を設定出来ます。照合回数(1:1 若しくは 1:N)、照合桁数、照合にバーコード種類も含めるのか含めないのか、1:N 照合での NG 時の照合元コード(マスタコード)取扱いなどです。
- 2. データ保存設定**— 照合データを NL9723CK 内に保存する、しないを選択できます。PC にデータを転送せず再利用しないのであれば、保存しない設定にすることで、データフルを気にせずに照合作業を進めることが出来ます。
- 3. 送信時データ扱**— PC ヘデータを送信した直後、そのデータを消去する、若しくは残すのかを設定します。
- 4. 読取バー設定**— 「照合元(マスタ)」、「照合先」、「担当者」それぞれについて、読取りを許可するバーコード種類を選択出来ます。(つまり余分なバーコード種類の読取りを禁止できます。)
- 5. 各種バー設定**— 「照合元(マスタ)」、「照合先」、「担当者」それぞれについて、各種バーコードについて読取り時の設定が出来ます。チェックキャラクタ検証を行う、末文字出力、スタートストップ出力などで、その設定可能項目は、各バーコード種類によって様々です。
- 6. 端末 ID 設定**— NL9723CK の個別 ID を設定できます。PC への送信データのレコード先頭に付加します。
- 7. 日時設定**— NL9723CK の日付及び時間の設定ができます。データ保存時の時間に使用されます。
- 8. オートパワーオフ**— NL9723CK のオートパワーオフまでの時間を設定できます。5~180秒の8段階です。
- 9. 音設定**— NL9723CK 操作時の音の有無を設定出来ます。
- 0. 設定初期化**— NL9723CK の各種設定項目を初期化します。保存中のデータは削除されます。

前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。

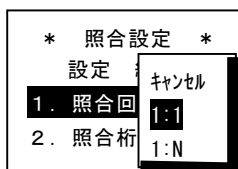
G.2 照合設定



[6. システム設定]メニューで[1. 照合設定]を選択すると左記のような画面が表示されます。

G.2-1 照合回数

[照合設定]画面で、[1. 照合回数]にカーソルを合わせ、[トリガー]キーを押すと小メニューが表示されます。



照合回数画面の小メニュー:

設定番号 6 の設定値	機能
キャンセル	[照合設定画面]に戻ります。
1:1	照合元(マスタ)と照合先を交互に読み取ります。
1:N	照合元(マスタ)を読んで、照合先を続けて読み取ります。

照合回数画面の小メニュー

G.2-2 照合桁

[照合設定]画面で、[2. 照合桁]にカーソルを合わせ、[トリガー]キーを押します。



[Q1][Q2]キーそれぞれで、[照合元の照合開始桁数]
[照合元の照合開始桁数]、[照合先の照合開始桁数]、
[照合桁数]をそれぞれ設定できます。

照合桁変更及び確認画面:

G.2-3 照合条件

[照合設定]画面で、[3. 照合条件]にカーソルを合わせ、[トリガー]キーを押します。



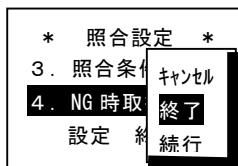
照合条件の小メニュー:

設定番号 10 の設定値	機能
キャンセル	[照合設定画面]に戻ります。
バーコード種類	照合時にバーコード種類も比較します。
データのみ	バーコード種類に関係なく値の比較をします。

照合条件画面の小メニュー

G.2-4 NG 時取扱い

[照合設定]画面で、[4. NG 時取扱い]にカーソルを合わせ、[トリガー]キーを押します。



NG 時取扱いの小メニュー:

設定番号 11 の設定値	機能
キャンセル	[照合設定画面]に戻ります。
終了	照合回数1:N で照合 NG 時に照合元(マスタ)を読み直す設定。
続行	照合回数1:N で照合 NG 時に照合元(マスタ)を継続する設定。

NG 時取扱い画面の小メニュー

G.3 データ保存設定

[システム設定]メニューで[2. データ保存設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。3 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

<p>* データ保存設定 *</p> <p>現在 : データ全部</p> <p>全部 無し 照合</p>	<p>* データ保存設定 *</p> <p>現在 : 保存しない</p> <p>全部 無し 照合</p>	<p>* データ保存設定 *</p> <p>現在 : 照合箇所のみ</p> <p>全部 無し 照合</p>
---	---	--

データ保存設定画面1: データ保存設定画面2: データ保存設定画面3:

設定番号 12 の 設定値	機能
全部	読み取るバーコード全て保存します。
無し	読み取ったバーコードを保存しません。
照合	[6. システム設定]—[1. 照合設定]—[2. 照合桁]にて設定した照合箇所のみを保存します。

設定番号 12:「データ保存設定」の設定説明

G.4 送信時データ扱設定

[システム設定]メニューで[3. 送信時データ扱]を選択すると下記のような画面が表示されます。3 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

<p>* 送信時データ扱 *</p> <p>現在 : 消去</p> <p>消去 残す</p>	<p>* 送信時データ扱 *</p> <p>現在 : 残す</p> <p>消去 残す</p>
--	--

送信時データ扱い設定及び確認画面:

設定番号 13 の 設定値	機能
消去	データを PC へ送信後データを削除します。
残す	データを PC へ送信後データを削除しません。

設定番号 13:「送信時データ取扱い」の設定説明

G.5 読取バー設定

[システム設定]メニューで[4. 読取バー設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
[照合元]、[照合先]、[担当者]それぞれについて、読取り可能なバーコードの種類を設定します。
該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。

<p>* 読取バー設定 *</p> <p>設定 終了</p> <p>1. 照合元(マスタ)</p> <p>2. 照合先</p> <p>3. 担当者</p> <p>設定 終了</p>
--

[照合元]、[照合先]、[担当者]それぞれについて、バーコード種類名の左に[*]印が付いている場合に読取り可能となります。

[トリガー]キーで[*]を付けたり外したりします。

<p>* 読取バー設定 *</p> <p>設定終了</p> <p>* CODE39</p> <p>* J A N</p> <p>* U P C</p> <p>* インターブ`ト` 2of5</p> <p>* インダ`ストリアル 2of5</p> <p>* CODE93</p> <p>* CODE128</p> <p>EAN128</p> <p>* NW 7</p> <p>I A T A</p> <p>設定終了</p>
--

読取許可バーコード設定
及び確認画面:

設定番号 14～33 の設定値	機能
CODE39	CODE39 で作られたバーコードを読み取り許可にします。
JAN	JAN13 及び JAN8 で作られたバーコードを読み取り許可にします。
UPC	UPC-A 及び UPC-E で作られたバーコードを読み取り許可にします。
インターリーブド 2of5	インターリーブド 2of5 で作られたバーコードを読み取り許可にします。
インダストリアル 2of5	インダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読み取り許可にします。
CODE93	CODE93 で作られたバーコードを読み取り許可にします。
CODE128 EAN128	<p>この2つは組合せで、機能が変わります。</p> <p>●CODE128 のみの場合： CODE128 で作られたバーコードを読み取り許可にし、EAN128 で作られたバーコードを CODE128 として読み取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮しません)。</p> <p>●EAN128 のみの場合： CODE128 で作られたバーコードを読み取り不許可にし、EAN128 で作られたバーコードを EAN128 として読み取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮します)。</p> <p>●両方[*]付の場合： CODE128 で作られたバーコードを読み取り許可にし、EAN128 で作られたバーコードを EAN128 として読み取り許可にします(スタートコードの直後の FNC1、AI(10) ロット番号(バッチ番号)のような可変長データの後ろの区切り FNC1 を考慮します)。</p> <p>●両方[*]無の場合： CODE128 で作られたバーコードを読み取り不許可にし、EAN128 で作られたバーコードを読み取り不許可にします。</p>
NW-7	NW-7 で作られたバーコードを読み取り許可にします。
IATA	IATA で作られたバーコードを読み取り許可にします。

設定番号 14～33:「読み取り可能バーコード種類設定」

前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押してください。

[照合元]、[照合先]、[担当者]それぞれで[読み取り可能バーコード種類]を絞ることで、業務上の読み取りミスを無くします。

G.6 各種バー設定

[システム設定]メニューで[5. 各種バー設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。
[照合元]、[照合先]、[担当者]それぞれについて、読取るバーコードの細かな設定をします。該当項目を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。前画面に戻る場合は[設定終了]にカーソルを合わせ[トリガー]キーを押して下さい

<p>* 各種バー設定 *</p> <p>設定 終了</p> <p>1. 照合元 (マスタ)</p> <p>2. 照合先</p> <p>3. 担当者</p> <p>設定 終了</p>

[照合元]、[照合先]、[担当者]それぞれについて、各種読取対象バーコードの読取条件や保存条件を設定します。設定を変更する バーコード種類名を[Q1][トリガー][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

<p>* 各種バー設定 *</p> <p>設定 終了</p> <p>CODE39</p> <p>J A N</p> <p>U P C</p> <p>Code2of5</p> <p>NW 7</p> <p>設定 終了</p>

各種バーコード詳細設定画面:

G.6-1 CODE39 (各種バー設定)

[各種バー設定]画面で[CODE39]を選択すると下記のような画面が表示されます。

* CODE39 *
設定 終了
チェックキャラクタ 検証
CC(末文字)出力
スタートストップ ^o 出力
設定 終了

CODE39 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1] [Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.6-1-1 チェックキャラクタ検証 (CODE39 各種バー設定)

チェックキャラクタ 検証
現在 : あり
あり なし

チェックキャラクタ 検証
現在 : なし
あり なし

CODE39 チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.6-1-2 CC(末文字)出力 (CODE39 各種バー設定)

CC(末文字)出力
現在 : あり
あり なし

CC(末文字)出力
現在 : なし
あり なし

CODE39 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.6-1-3 スタートストップ出力 (CODE39 各種バー設定)

スタートストップ ^o 出力
現在 : あり
あり なし

スタートストップ ^o 出力
現在 : なし
あり なし

CODE39 スタートストップ出力設定及び確認画面:

設定番号 34～36、51 ～53 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	CODE39 で作られたバーコードを読み取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)モジュール 43 の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っているバーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、CODE39 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット) モジュール 43 かどうかの判定はしていません。
スタートストップ出力	[なし]の場合、CODE39 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、スタートストップコード(*)を除去します。

設定番号 34～36、51～53:「CODE39 詳細設定」

下記バーコードは CODE39 で、[100]にモジュール 43 チェックキャラクタ(チェックデジット)[1]が付加されたバーコード例です。設定番号 34 を[あり]でも[なし]でも読み取れます。設定番号 35 を[あり] 設定番号 36 を[あり]にすると[*100*]と保存され、設定番号 35 を[あり] 設定番号 36 を[なし]にすると[100]と保存されます。



CODE39 モジュール 43 チェックキャラクタ付加の例:

下記バーコードは CODE39 で、[100]のバーコード例です(チェックキャラクタ無)。設定番号 34 を[あり]にしていると読み取れません。設定番号 35 を[あり] 設定番号 36 を[あり]にすると[*10*]と保存され、設定番号 35 を[あり] 設定番号 36 を[なし]にすると[10]と保存されます。



CODE39 モジュール 43 チェックキャラクタ無しの例:

G.6-2 JAN13 JAN8 (各種バー設定)

[各種バー設定]画面で[JAN]を選択すると下記のような画面が表示されます。

* JAN 13/8 *
設定 終了
13CC(末文字)出力
8 CC(末文字)出力
設定 終了

JAN13/8 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.6-2-1 13CC(末字)出力 (JAN13 各種バー設定)

13CC(末字)出力
現在: あり
あり なし

13CC(末字)出力
現在: なし
あり なし

JAN13 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.6-2-2 8CC(末字)出力 (JAN8 各種バー設定)

8 CC(末字)出力
現在: あり
あり なし

8 CC(末字)出力
現在: なし
あり なし

JAN8 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 37~38、54 ~55 の設定値	機能
13CC(末字)出力	[なし]の場合、JAN13 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
8CC(末字)出力	[なし]の場合、JAN8 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 37~38、54~55:「JAN13/8 詳細設定」

G.6-3 UPC A/E (各種バー設定)

[各種バー設定]画面で[UPC]を選択すると下記のような画面が表示されます。

* UPC A/E *
設定 終了
A 先頭0出力
A CC(末字)出力
E 先頭0出力
E CC(末字)出力
設定 終了

UPC A/E 各種設定選択画面:

以降の画面では2段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.6-3-1 A 先頭0出力 (UPC-A 各種バー設定)

A 先頭0出力
現在: あり
あり なし

A 先頭0出力
現在: なし
あり なし

UPC-A 先頭0出力設定及び確認画面:

G.6-3-2 A CC(末字)出力 (UPC-A 各種バー設定)

A CC(末字)出力
現在: あり
あり なし

A CC(末字)出力
現在: なし
あり なし

UPC-A チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

G.6-3-3 E 先頭0出力 (UPC-E 各種バー設定)

E 先頭0出力
現在: あり
あり なし

E 先頭0出力
現在: なし
あり なし

UPC-E 先頭0出力設定及び確認画面:

G.6-3-4 E CC(末字)出力 (UPC-E 各種バー設定)

E CC(末字)出力	
現在： あり	
あり	なし

E CC(末字)出力	
現在： なし	
あり	なし

UPC-E チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面：

設定番号 39～42、56 ～59 の設定値	機能
A 先頭 0 出力	[あり]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭に[0]を付加し 13 桁にし EAN13 として扱います。 [なし]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭に[0]を付加せず 12 桁にします。
A CC(末字)出力	[なし]の場合、UPC-A で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
E 先頭 0 出力	[あり]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭の[0]をそのままに 8 桁とします。 [なし]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、先頭の[0]を外し 7 桁にします。
E CC(末字)出力	[なし]の場合、UPC-E で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 39～42、56～59:「UPC A/E 詳細設定」

G.6-4 Code 2 of 5 (各種バー設定)

[各種バー設定]画面で[Code2of5]を選択すると下記のような画面が表示されます。

```

* Code 2of5 *
  設定 終了
  チェックキャラクタ 検証
  CC(末文字)出力
  設定 終了
  
```

Code 2 of 5 各種設定選択画面:

以降の画面では 2 段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.6-4-1 チェックキャラクタ検証 (Code 2 of 5 各種バー設定)

```

  チェックキャラクタ 検証
  現在 : あり
  あり  なし
  
```

```

  チェックキャラクタ 検証
  現在 : なし
  あり  なし
  
```

Code 2 of 5 チェックキャラクタ検証設定及び確認画面:

G.6-4-2 CC(末文字)出力 (Code 2 of 5 各種バー設定)

```

  CC(末文字)出力
  現在 : あり
  あり  なし
  
```

```

  CC(末文字)出力
  現在 : なし
  あり  なし
  
```

Code 2 of 5 チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面:

設定番号 43~44、60 ~61 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	インターリーブド 2of5 及びインダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読み取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っているバーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、インターリーブド 2of5 及びインダストリアル 2of5 で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。

設定番号 43~44、60~61:「Code 2 of 5 詳細設定」

G.6-5 NW7 (各種バー設定)

[各種バー設定]画面で[NW7]を選択すると下記のような画面が表示されます。

* NW7 (Codabar) *
設定 終了
チェックキャラクタ 検証
CC(末文字)出力
許容最小文字数
スタートストップ° 出力
スタ/スト 大 or 小
ストップ°トラテ°イソナル
設定 終了

NW7(Codabar)各種設定選択画面：

以降の画面では2段目に現在の設定状況が表示されます。キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

G.6-5-1 チェックキャラクタ検証 (NW7 Codabar 各種バー設定)

チェックキャラクタ 検証
現在： あり
あり なし

チェックキャラクタ 検証
現在： なし
あり なし

NW7(Codabar)チェックキャラクタ検証設定及び確認画面：

G.6-5-2 CC(末文字)出力 (NW7 Codabar 各種バー設定)

CC(末文字)出力
現在： あり
あり なし

CC(末文字)出力
現在： なし
あり なし

NW7(Codabar)チェックキャラクタ(末文字)出力設定及び確認画面：

~~G.6-5-3 許容最小文字数 (NW7 Codabar 各種バー設定)~~

許容最小文字数
現在： 5文字指定
5文字 なし

許容最小文字数
現在： 指定なし
5文字 なし

~~NW7(Codabar)許容最小文字数設定及び確認画面：~~

※ハードウェア改訂に伴い機能削除

G.6-5-4 スタートストップ出力 (NW7 Codabar 各種バー設定)

スタートストップ [®] 出力 現在 : あり	スタートストップ [®] 出力 現在 : なし
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

NW7(Codabar) スタートストップ出力設定及び確認画面:

G.6-5-5 スタ/スト 大 or 小 (NW7 Codabar 各種バー設定)

スタ/スト 大 or 小 現在 : 大文字	スタ/スト 大 or 小 現在 : 小文字
<input checked="" type="checkbox"/> 大文字 <input type="checkbox"/> 小文字	<input type="checkbox"/> 大文字 <input checked="" type="checkbox"/> 小文字

NW7(Codabar) スタートストップ文字サイズ設定及び確認画面:

G.6-5-6-1 ストップトラディショナル (NW7 Codabar 各種バー設定)

ストップ [®] トラディショナル 現在 : TN*E	ストップ [®] トラディショナル 現在 : ABCD
<input checked="" type="checkbox"/> TN*E <input type="checkbox"/> ABCD	<input type="checkbox"/> TN*E <input checked="" type="checkbox"/> ABCD

NW7(Codabar) ストップコード種類設定及び確認画面(大文字時):

G.6-5-6-2 ストップトラディショナル (NW7 Codabar 各種バー設定)

ストップ [®] トラディショナル 現在 : tn*e	ストップ [®] トラディショナル 現在 : abcd
<input checked="" type="checkbox"/> tn*e <input type="checkbox"/> abcd	<input type="checkbox"/> tn*e <input checked="" type="checkbox"/> abcd

NW7(Codabar) ストップコード種類設定及び確認画面(小文字時):

設定番号 45～50、62～67 の設定値	機能
チェックキャラクタ検証	NW7(CodaBar)で作られたバーコードを読み取る際に、チェックキャラクタ(チェックデジット)モジュラス 16 の検証の有無を設定します。 [あり]の場合、チェックキャラクタが付加されていない若しくは間違っている、チェックキャラクタ計算方法が違う場合、バーコードは読み取れません。
CC(末文字)出力	[なし]の場合、NW7(CodaBar)で作られたバーコードを読取った後データ保存する際に、末尾文字を除去します。末尾文字がチェックキャラクタ(チェックデジット)かどうかの判定はしていません。
許容最小文字数	NW7(CodaBar)で作られたバーコードの最小桁数を設定出来ます。[5文字]とした場合、5桁未満のバーコードは読めません。
スタートストップ出力	[なし]の場合、NW7(CodaBar)で作られたバーコードを読み取った後データ保存する際に、スタートストップコード(abcdABCDtn*eTN*E)を除去します。
スタ/スト 大 or 小	スタートストップコードを大文字若しくは小文字の選択出来ます。
ストップトラディショナル	ストップコードに関して abcdABCD 若しくは tn*eTN*E の選択できます。

設定番号 45～50、62～67:「NW7(Codabar)詳細設定」

※罫線のある項目はハードウェア改訂に伴い、一旦削除されております。

G.7 端末 ID 設定

[システム設定]メニューで[6. 端末 ID 設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。2 段目に現在の設定状況が表示されます。[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用して端末 ID を変更して下さい。

* 端末 ID 設定 *
0001_
中止 変更 移動

[Q2]キーで変更する桁を移動し、[トリガー]キーで数値を Up させます。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。カーソルは千の位から一の位へ左から右へ移動します。

端末 ID 設定及び確認画面：

* 端末 ID 設定 *
0001
設定しますか？
中止 設定 移動

一の位の次に[Q2]キーで移動したときに、左記のような画面に変わり、[トリガー]キーは端末 ID の設定ボタンに変わります。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。

端末 ID 設定確認画面：

* 端末 ID 設定 *
端末 ID を
設定しました
確認

端末 ID の設定が正しく行われると左記のように表示します。[Q2]キーで[システム設定]画面を表示します。

端末 ID 設定終了画面：

G.8 日時設定

[システム設定]メニューで[7. 日時設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。

1 段目に日付、2 段目に時間が表示されます。[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用して日時を変更して下さい。

05/08/10
10:10:05
中止 変更 移動

[Q2]キーで変更する桁を移動し、[トリガー]キーで数値を Up させます。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。カーソルは年月日時分秒と左から右、1 段目から 2 段目へ移動します。

日時設定及び確認画面:

05/08/10
10:10:05
設定しますか?
中止 設定 移動

秒の次に[Q2]キーで移動したときに、左記のような画面に変わり、[トリガー]キーは日時の設定ボタンに変わります。[Q1]キーでは変更作業を中止し、[システム設定]画面に戻ります。

日時設定確認画面:

日時を
設定しました
確認

日時の設定が正しく行われると左記のように表示します。
[Q2]キーで[システム設定]画面を表示します。

日時設定終了画面:

G.9 オートパワーオフ設定

[システム設定]メニューで[8. オートパワーオフ]を選択すると下記のような画面が表示されます。2 段目に現在設定されている、自動電源 OFF までの秒が表示されます。[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーを使用してオートパワーオフを変更して下さい。

オートパワーオフ設定

△
▽

30 秒

前
選択
次

[Q1][Q2]キーでリスト選択、[トリガー]キーで確定させます。

オートパワーオフ設定及び確認画面：

設定番号 68 の設定値	自動電源 OFF までの秒							
オートパワー オフ(秒)	5	10	15	30	45	60	120	180

設定番号 68:「オートパワーオフ設定」

オートパワーオフ時間とは、キー押下などの操作を行わずに、一定時間放置すると、自然に動作が終了するタイマー時間です。終了した状態で、いずれかのキーを押すと、終了した画面から動作が再開します。

G.10 音設定

[システム設定]メニューで[9. 音設定]を選択すると下記のような画面が表示されます。2 段目に現在設定されている、音設定が表示されます。[Q1][Q2]キーそれぞれを使用して音設定を変更して下さい。

* 音設定 *

現在：音あり

あり
なし

* 音設定 *

現在：音なし

あり
なし

動作音設定及び確認画面：

キャンセルはありませんので、変更しない場合も、該当項目を[Q1][Q2]キーそれぞれで選択して下さい。

設定番号 69 の設定値	機能
音あり	端末操作時に音が鳴ります。
音なし	端末操作時に音が鳴りません。

設定番号 69:「オートパワーオフ設定」

G.11 設定初期化

[システム設定]メニューで[0. 設定初期化]を選択すると下記のような画面が表示されます。現在保存中のデータも削除されますので注意が必要です。[Q1][Q2]キーで作業を選択して下さい。

当作業は保存中 データを消します 実行しますか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
--

設定初期化確認画面:

初期化される設定番号は2～67 で以下のとおりです。

[5.データ初期化]

- 保存桁数
- 元開始桁
- 先開始桁
- 照合桁数

[6.システム設定]

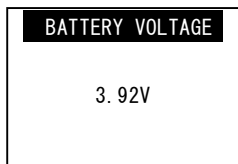
- 1.照合設定
- 2.データ保存設定
- 3.送信時データ扱
- 4.読取バー設定
- 5.各種バー設定

初期化後は各種デフォルト値になります。(P10～P12 参照)

H. 電池残量

H.1 開始

[メインメニュー]で[7. 電池残量]を選択して[トリガー]キーを押します。



[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーのいずれかでメインメニューに戻ります。

電池残量確認画面：

I. 空きメモリ

I.1 開始

[メインメニュー]で[8. 空きメモリ]を選択して[トリガー]キーを押します。



[Q1]キー、[トリガー]キー、[Q2]キーのいずれかでメインメニューに戻ります。

3 段目に現在の空き容量が表示され、4 段目に残り照合結果保存予定数が表示されます。この保存回数はその時々々の空き容量に依存しますので、**Roughly**(約)という表現になっております。

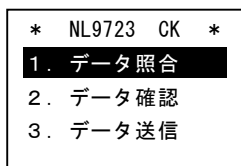
空きメモリ及び想定保存 あくまで目安としてお考え下さい。

可能残数確認画面：

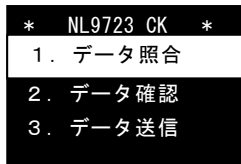
J. 反転

J.1 開始

[メインメニュー]で[9. 反転]を選択して[トリガー]キーを押します。



画面表示の白黒を反転させます。デフォルトは白地に黒文字ですが、お好みで反転させてご利用下さい。



反転画面 例

8:仕様

1. 電気的特性	主電池	:リチウムイオン充電電池
	副電池	:二酸化マンガシリチウム 2 次電池
	操作時間	:50 時間(主電池)
	データ保持時間	:72 時間(副電池)
	充電方法	:クレードルによる本体充電
2. 環境条件	動作温度	: 0℃ ~ 40℃
	保存温度	: -20℃ ~ 60℃
	動作湿度	: 20% ~ 80%RH(結露無きこと)
	保存湿度	: 20% ~ 90%RH(結露無きこと)
	耐落下強度	:1.5m
3. 光学的特性	光源	:赤色半導体レーザー 波長 650nm
	走査速度	:100 スキャン/秒
	最小 PCS 値	:0.45
	最小分解能	:0.127mm
4. 液晶表示部	表示サイズ	:112 x 64 ドット
	文字の種類	:英数字、漢字
	バックライト	:無し
	表示桁数	:16 ドット 7 桁
5. 機能仕様	CPU	:16bit マイコン
	SRAM	:128KB(内、40KB 弱はプログラム使用)
	読取り確認	:ブザー及び LED
	キーボード	:3キー(Q1、トリガー、Q2)
6. メモリ	記憶データ件数	:700 件~1800 件 (データ初期化時の保存桁数設定[4~40]によって可変)
7. 適合規格	レーザー製品安全規格	JIS C 6802 Class2 準拠、VCCI クラス B 準拠
8. 同梱品	リチウムイオン充電電池、ハンドストラップ	
9. 通信部	IrDA	:Ver1.2 準拠
	プロトコル	:独自プロトコル (通信速度 115,200bps)

10. 質量 : 約 85g(電池の重さ含む)

11. 外観・寸法 最外形寸法 : (幅) 44mm×(長さ) 125mm×(高さ) 19mm

12. 読取仕様

読取幅

最大 243mm (読取深度 300mm、分解能 1.0 時)

最小 44mm (読取深度 35mm、分解能 0.15 時)

読取幅(mm)	読取深度(mm)	分解能
44	35	0.15
63	60	0.15
71	70	0.15
108	120	0.25
176	210	0.5
243	300	1.0

※読取幅は算出値であり、これを保障するものではありません。

13. 読取りバーコード

以下の8種類のコードを自動識別し読み取ります。

1) WPC

(A) JAN : JAN13, JAN8

(B) EAN : EAN13, EAN8

(C) UPC : UPC-A, UPC-E

2) NW7(CODABAR)

3) CODE39

4) インターリーブド 2 of 5

5) インダストリアル 2 of 5

6) CODE93

7) CODE128

8) EAN128

9) I A T A

【補足】

スタートストップやチェックキャラクタ(チェックデジット)等は、
本体プログラムシステム設定によって、桁数に含む・含まないは可変です。

(編集の都合によりこのページは空白です。)

日栄インテック株式会社

情報事業部 バーコードグループ

<http://www.barcode.ne.jp>

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-1

日栄インテック神田ビル 3F

TEL:03-5256-7733 FAX:03-5256-5503

info@barcode.ne.jp